



〔育成を目指す資質・能力〕 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話す力

〔単元名〕 PROGRAM 3 “Taste of Culture” SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 (開隆堂出版)

〔単元目標〕 四万十町に外国人観光客を誘致するために、四万十町でできるイベントについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。



〔協議の視点〕 付けたい資質・能力を育成するための単元構成になっているか (見方・考え方の視点から)

入之内昌徳 教科調査官より

子どもたちが、思考・判断するためには、伝える相手は不特定多数ではなく、具体的なほうがよいのではないか。

まとまりのある文章にするために、マッピングの段階で順序や構成について、丁寧に指導をしていくことが必要ではないか。



ALTを活用し、相手のニーズに合った内容を盛り込んでいくことを意識させながら授業をすすめることが大切だと思う。

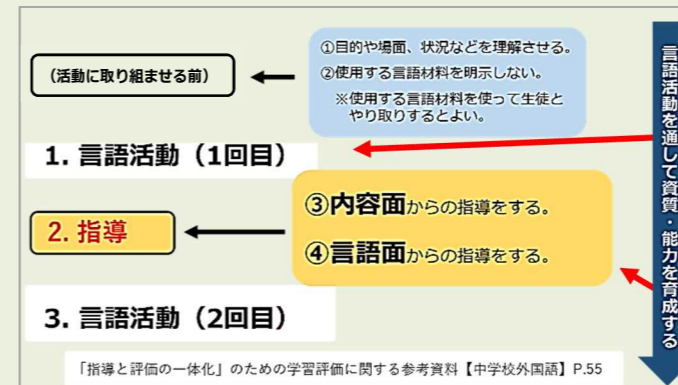
単元を通して資質・能力を育成する

単元を通して、話すトピックを変えながら言語活動を繰り返すことで、子どもたちは、**見方・考え方を働かせて**、ゴールの活動に向かうことができる。ただし、同じような活動を繰り返すだけでなく、毎時間の**中間指導**を通して、子どもたちの**成長を促す**ことが必要である。また、**振り返り**を通して、自分の変容や成長を自ら自覚し、次時への学習意欲を高めることができる。

	活動内容	中間指導	振り返り	見方・考え方
1	四万十町のイベントに出店する食べ物アイデアについて、まとまりのある内容を話す。	中間指導	振り返り	見方・考え方の成長
2	金太郎夜市で行うスポーツイベントのアイデアについて、まとまりのある内容を話す。	中間指導	振り返り	
3	金太郎夜市で行う音楽イベントのアイデアについて、まとまりのある内容で話す。	中間指導	振り返り	
4	金太郎夜市で行うなぎのつかみ取り大会について、まとまりのある内容で話す。	中間指導	振り返り	
ゴール	外国人観光客を誘致するために、四万十町でできるイベントのアイデアについて、まとまりのある内容で話す。			

中間指導の意義

- 子どもたちが自分の活動を振り返ったり、見方・考え方を働かせながら見直し、付け足し、再構築するために行う。
- 教師は、活動の際に子どもたちがどのような発言をして、どのようなところでつまづいているかに気付くことが大切。そのために、机間指導の際に必ずメモをとる。



いい内容を子どもたちに共有するために、教師は活動をモニタリングし、中間指導に生かす。

③及び④ ⇒ この指導を確実にを行うことが大切である。

振り返りについて

- 振り返りを行うことで、次の自分の言語活動に生かそうとする自己調整を図ることができる。
- 1人1台端末を活用してクラウド上で振り返りを行うと、他の生徒が記述した振り返りを共有でき、友達の意見を参考にして再度自分の振り返りに加筆することもできる。

〔協議の視点〕 単元目標を達成するための教科書の効果的な活用方法について

入之内昌徳 教科調査官より

教科書で扱われている場面や内容と単元のゴール活動につながりをもたせる。

教科書の表現を参考に自分の考えを伝える方法を知る。



言語材料を習得することで、どんなことができるかを生徒と共有する。

言語材料を効果的に生かす

言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。

〔中学校学習指導要領解説 外国語編 p29〕

「不定詞」「動名詞」の有用性が感じられるのは、どんな場面だろう。



このことは、ALTに尋ねてから、分析してみようかな。

CAN-DO リストが、子どもたちのものになっているか。

- 教科書活用も含め、単元計画を立てる前に、目指している姿（中学校卒業時のゴールの姿及び当該学年のゴールの姿）を明確にしておく。
- 子どもたちの実態に応じた学習到達目標となるような設定が必要。
- 授業者が、単元ゴールやCAN-DOを子どもたちと共有することで、その単元で学習する知識や身に付けるべき力を明確にイメージできるとともに、生徒が意欲的に言語活動に取り組むことができる。

「英語教育実施状況調査」によると、高知県は「CAN-DO リストを作成している中学校の割合は100%だが、公表（共有）している割合は50%に留まっている。

